

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	122-1 国際交流推進事業(他国との交流事業)	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
基本施策	55 外国人と交流でき、共生できる地域社会をつくる	目	07	文化振興費
		細目	129	国際交流推進事業
行革大綱の重点事項番号	7	細々目	51	国際交流推進事業
担当部課	コード 11300 名称 企画総務部企画課	担当者氏名	福島 礼子	連絡先 22 - 9621 (内線) 2115

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	国際交流に関心のある市民及び団体	※対象件数
成果(どうする)	他国との交流を深め、報道機関等を活用し伊賀市を世界に発信する。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 10 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業内容	伊賀上野シティマラソンの開催に際して、南アフリカ共和国大使館書記官が来訪し、スポーツを通じて交流をした。	
社会情勢の変化等	南アフリカ共和国とは、スポーツを通じて交流を行っているが、平成20年度から伊賀上野シティマラソン実行委員会において費用を負担することとなった。 また、平成10年度から英国ストラット・アポン・エイボンと交流が続いていたが、平成15年度を最後に交流は途絶えている。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
南アフリカ共和国大使館来訪回数	回	回	目標	2	目標	0
			実績	1	実績	1
			目標		目標	
			実績		実績	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
南アフリカ共和国大使館来訪回数	回	大使館の来訪により伊賀市をより一層アピールすることができる	回	目標	2	目標	0
				実績	1	実績	1
				目標		目標	
				実績		実績	

投入コスト	Aの財源内訳	H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
直接事業費計(A)	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金				
	地方債				
	その他	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0
	事業投入人件費(B)	人	0	人	0
フルコスト(A)+(B)		0	0	0	0

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	南アフリカ共和国との交流は実施団体等で継続していく。英国との交流は自然消滅状態であり、交流を続ける見込みがない限り事業は廃止し、今後は市民レベルで交流活動が行えるような友好都市交流を検討していく。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 伊賀上野シティマラソン事業を通して、南アフリカ共和国との交流事業を実施した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	増田 基生
事業の方向性	【方向性】 縮小 【理由】 国際交流事業の実施団体等が実施している現状の交流活動が維持できるように、財政負担を伴わない行政支援を行う。
現時点における課題、その他	他国との交流の必要性について、関係部署との協議が必要である。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	南アフリカ共和国との交流は、特定の事務事業(伊賀上野シティマラソン)を通じた交流に留まっていることから、事業の実施団体等で継続していく。 英国との交流は、近年において断絶しており継続する見込みがないことから廃止する。